

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン  
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	4
申請担当大学 (連携大学)	東京医科歯科大学（計8大学） （秋田大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学）		
プログラム名	未来がん医療プロフェッショナル養成プラン		
事業推進責任者	北川 昌伸（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科副研究科長）		
取組の概要			
<p>これまでに、2期にわたるがん対策推進基本計画と併走する形で、がんプロフェッショナル養成プラン、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが実施された。特に後者によって多くの医学部に化学療法、緩和ケア、地域医療などの講座が新設され、従来の診療科を横断する人材養成体制の構築と全国的ながん教育の均霑化が整備されてきた。本プランは、これまでに養成した人材およびシステムを最大限に活用し、さらに新たな枠組みによって未来志向のがん医療者を養成することを目的に計画したものである。本プランの特徴は、「連携」と「実践」である。すなわち、各々の大学が各自のネットワークを利用し、さらに構成8大学間での密な連携を構築することによって、がんゲノム、小児がん、希少がん、多様なライフステージへの対応などについてのコースワークに加えて、実践の場所を大学間で補完し実効性を伴う人材育成が可能となるように設計している。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○各大学の特色を生かし、地域、患者・家族の連携を課題にした意欲的な構想であり評価できる。 ○医、薬、看護に加え、歯科や遺伝医療、臨床心理、がんリハビリ療法士など、幅広い分野の専門家の養成を目指している点が評価できる。 ○小児がんに対してプログラムが充実していることや、社会人大学院生の受け入れなどキャリア教育がプログラム化されている。 ○大学間の連携によって、プレジジョンメディシンの社会実装を含むゲノム医療提供体制や各種医療提供に関わる人材を育成する点が評価できる。 ●8大学連携と数が多く、そのうち一部の大学で役割分担が明確になっていない。 ●地域の医療機関や行政、一般市民とのネットワークの構築について具体的に検討する必要がある。 ●補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。 ●事業の実施担当者が100人を超えており、各大学の連携をスムーズに行うための方策を検討する必要がある。 ●ライフステージの多様性に配慮するためには、それぞれの世代の多様性に基づく脆弱度を評価し、それに基づいた医療介入等を提案する方法がまだ十分には確立していないことを踏まえ、従来の教育コンテンツの組み直しだけでなく新規開発なども考慮することが望ましい。</p>			